



# 巨勢谷・市尾の古墳群と寺院

## みどころ

曾我川上流の巨勢谷は、古代の豪族巨勢氏の本願地です。

巨勢山の つらつらつばき つらつらに見つ思はな 巨勢の春野を (坂門人足『万葉集巻1-54』)と詠まれた巨勢谷は、6世紀以降に古墳の築造が活発となり、飛鳥時代には寺院の建立もおこなわれています。紀ノ川流域との交易を支えた巨勢路をたどりながら、巨勢氏の歴史をたどってみましょう。

### 1 みどころふん 水泥古墳

吉野口駅改札を出てすぐ南下します。国道309号線の高架下の踏切を渡り、しばらくJR和歌山線の西側を南下します。道が細くなりますが南下を続け、つきあたりに行き着くので、案内板に従い右、左の順に民家の間を縫うように進めば、道路の右手すぐに水泥古墳があります。水泥古墳(円墳・径約20m・国の史跡)は、畑中にのこる古墳です。南に開口する横穴式石室は、全長10.8mを測ります。羨道奥と玄室に、それぞれ刳抜式家形石棺が置かれています。羨道の石棺の蓋には、南・北の縄掛突起の正面に蓮華紋が彫られています。石棺の形状や文様から、7世紀前半に築かれたと考えられています。



水泥古墳 石棺

には径89cm・深さ12cmの円柱穴と、その中央に径13cmの舍利孔が穿たれています。舍利孔の周囲には同心円の溝がめぐり、水を一条の溝に集めて排水するようになっています。また塔の礎石の一部は、大日堂に再利用されています。塔の西には金堂があり、一部の礎石が地中に残っています。さらに西の尾根斜面には瓦葺がつくれ、金堂の南では梵鐘の鋳造遺構も確認されています。※線路には立ち入らないようにしましょう。

### 2 こんげんどうふん 権現堂古墳

吉野口駅から東に進み、曾我川にかかる橋を渡ってから左へまがり北上します。古瀬中橋バス停を通り過ぎ50m程行くと次の辻があるので右に東進します。ポストのある辻を直進すれば、寺院(重信院)に至る石段があるので登ります。寺院の奥に天安河神社があります。権現堂古墳(円墳・径約30m・県の史跡)は、天安河神社境内に残る古墳です。長さ8.8m以上を測る横穴式石室は、奥壁が壊されており、そこから内部の様子をみる事ができます。玄室には凝灰岩製刳抜式家形石棺が2基置かれていましたが、1基は完全に破壊されてしまいました。今残る石棺は、古式な家形石棺であり、棺身の小口に枕が彫りだされています。御所市條にある巨勢山古墳群の中古墳にも、枕を造りつける石棺が知られています。出土遺物から、6世紀前半に築かれた古墳と推定されています。

### 3 こせでらあと 巨勢寺跡

元来た道を曾我川まで戻り、北上します。近鉄線をくぐりすぐ左折して、近鉄線の北側を沿うように進めば、近鉄線とJR線の分岐部分に祠があり、ここが巨勢寺跡の中心です。巨勢寺跡は巨勢氏の氏寺であり、飛鳥時代に創建されたと推定されています。塔跡は国の史跡に指定されています。塔心礎は花崗岩の巨石で、上面



巨勢寺塔心礎

### 4 しんぐうやまこふん 新宮山古墳

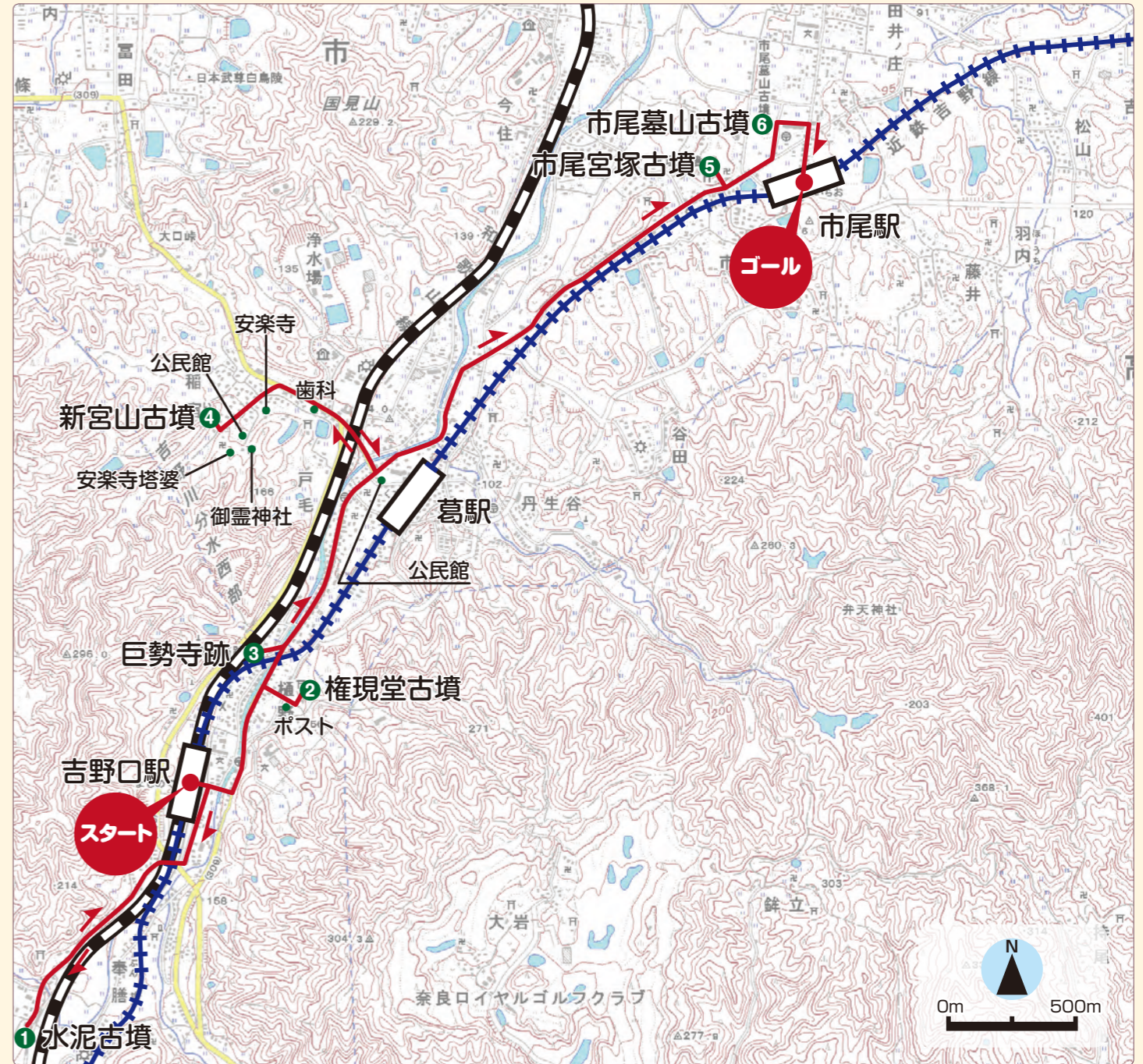
元来た道を戻り、曾我川の東岸を北上します。戸毛の集落の中をぬけ、葛公民館のある交差点で左に曲がります。歯科医院を超えて100mほど行くと左に入る細い道があるので、そちらに入り、稲宿の集落の中を進みます。道なりに進み、民家がとぎれる手前で「安楽寺塔婆・葛城寺」の標識が左を示す辻に至ります。その角で右の民家の方に入る小道を登ると、「新宮山古墳」を示す赤い標識があります。標識に従い竹林を進みます。新宮山古墳(円墳・径約25m・県の史跡)は、尾根上に築かれた古墳です。南東方向に大形の横穴式石室が開口しており、全長13.6mを測ります。高さ3mを測る玄室には、手前に刳抜式家形石棺があり、奥には組合せ式石棺の板材が残っています。石棺や石室の形態から、6世紀中頃に築かれた古墳と考えられています。なお、国指定重文「安楽寺塔婆」も近いので、立ち寄られるのも良いでしょう。



新宮山古墳

### 5 いちおみやつかこふん 市尾宮塚古墳

来た道を戻り、踏切を渡り、葛公民館のある交差点を左に曲がり北上します。葛公民館から近鉄線沿いに2kmほど進めば、天満神社の鳥居が見えてきますので鳥居をくぐり神社へ向かいます。市尾宮塚古墳(前方後円墳・墳長44m・国の史跡)は、天満神社の裏側に位置する古墳です。後円部には横穴式石室があり、北々西に開口しています。石室は全長約10mを測り、玄室奥には壊された凝灰岩製の家形石棺が残っています。6世紀前半から中頃にかけて築造された古墳と推定されています。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平21業複、第425号)

### 6 いちおはかやまこふん 市尾墓山古墳

神社をでて鳥居をくぐり市尾駅方面に向かいます。郵便局手前の角を左に曲がれば、水田の中に美しく整備された墳丘が見えます。市尾墓山古墳(前方後円墳・墳長66m・国の史跡)は、水田の中に一段高く残る古墳です。古墳の周囲は外堤がめぐり、そのなかに2段築成の墳丘が横たわっています。南くびれ部には造出しがあり、墳丘裾には円筒埴輪のほか、鳥・儀仗形木製品が立て並べられていました。後円部には南に開口する横穴式石室があり、長さ約9.5mを測ります。礎が敷き詰められた玄室には、古式な家形石棺が置かれています。出土遺物からは、6世紀前半に築造された古墳と推定され、当時の大臣であった許勢男(おほせのおとこ)の墓ではないかとの説もあります。ここからは、金剛・葛城の山なみが一望でき、すばらしい眺めです。

**注** トイレの少ないコースです。駅・コンビニをご利用ください。石室内の観察に、懐中電灯などがあれば便利です。紹介したコースには私有地なども含まれます。マナーを守って見学しましょう。

## コース

- 近鉄吉野口駅
- ▼ 20分
- 1 水泥古墳 ▼ 35分
- 2 権現堂古墳 ▼ 7分
- 3 巨勢寺跡 ▼ 26分
- 4 新宮山古墳 ▼ 45分
- 5 市尾宮塚古墳 ▼ 8分
- 6 市尾墓山古墳 ▼ 8分
- 近鉄市尾駅

平城遷都 1300年祭



©Heijyo-kyo 1300th Anniv.